

さてある時、聖書研究のクラスで、次のようなやり取りがありました。一人の学生が言いました。「昔、山室軍平先生が新約聖書を読んで、その内容に感動して、この神様のことばを多くの人々にも読んでいただきたいと思い、何と聖書をバラバラにして一枚一枚、道行く人に配って歩いたそうなんだ！」すると、他の学生が言いました。「でも、最初の 1 ページをもらった人は、何が何だかわからなかっただろうね。お気の毒に。」

——— 系図の重要性 ———

確かに、多くの人々にとっては新約聖書の 1 ページはあまり意味を持っていないかも知れません。それは、ただユダヤ人の名前を述べているだけに過ぎないからです。

しかし私たちは、多くの人々にかえりみられないような所にも、大切な隠されている物があるかも知れないことを忘れてはなりません。どんな書物でも長い年月、保存されて来たという事は、それなりの理由があるからなのです。存在価値があったからです。

例えば、人類に何の役にもたたないように見える砂漠でも、そこを掘ると石油が出て来るかも知れません。その時その所は、世界的に最も重要な場所となるのです。

では私たちは、今朝のみことばの箇所から、何を発掘するのでしょうか？

——— むかしばなし ———

(1:1 節)「アブラハムの子、ダビデの子、イエス・キリストの系図。」

私は、小さな頃、冬の寒い日に火鉢に当たりながら、離れの三畳の部屋で、おじいさんから昔ばなしをよく聞きました。こんなはなしがありました。

「昔むかし、ある所におじいさんとおばあさんがいました。(桃太郎のおはなしです)」

さて、この桃太郎のおはなしを、きちんと記録に残すとしてします。すると、次のようなむずかしい問題が起こるのではないのでしょうか。

「昔むかし・・・」とは一体、いつ頃ですか？ 西暦何年ですか？

「あるところ・・・」とは何県何郡何村・・・何番地ですか？

「おじいさん、おばあさん」のお名前は？

でも、それは無理というものです。できませんね。

なぜならば、それはおとぎ話だからです。歴史の事実ではありません。

本当のニュースではないのです。

——— 歴史的な事実 ———

とするならば、マタイが福音書を書き始める時に「アブラハムの子、ダビデの子、イエス・キリストの系図」と書いたことは、非常に重大な意味があると考えなければなりません。

そうです。

イエス・キリストに関する物語は、おとぎ話でもなく、作り話でもありません。

主イエス様はノンクリスチャンもクリスチャンも認めなくてはならない客観的な公の戸籍謄本を持つ歴史上の実在人物であると言う事です。架空の人物ではありません。歴史の中におられたお方です。ですから私たちは、この系図を学ぶ時に、歴史の事実を学ぼうとしています。今朝の新聞を読むのと同じです。事実、そこにあった出来事を学ぶのです。

——待ち望む民族となった理由とは ——

ところが、この歴史的な出来事、イエス様の誕生は、単なる一人の宗教家の誕生とは全く意味が違います。いつか、私のある友人が結婚して「来年の3月3日に赤ちゃんが誕生しそうだ」と言っていました。赤ちゃんの誕生、それは数か月くらい前から、その時期を知る事が出来ます。しかし、イエス様の誕生は、何と数千年も前から知らされて（預言されて）いたのです。

神様は BC2000 年の頃に、ユダヤ民族の先祖、イスラエルの父祖アブラハムに次の様に約束されました。

（創世記 12:3 節）「・・・地のすべての部族は、あなたによって祝福される。」

（創世記 18:18 節）「アブラハムは必ず、強く大いなる国民となり、地のすべての国民は彼によって祝福される。」

（創世記 22:18 節）「・・・あなたの子孫によって、地のすべての国々は祝福を受けるようになる。」

更に、ダビデにも、BC1000 年頃、神様は約束しました。

（第2サムエル 7:12-16 節）「(12 節)・・・わたしは、あなたの身から出る世継ぎの子をあなたの後に起こし、彼の王国を確立させる。(16 節)・・・あなたの王座はとこしえまでも固く立つ。」

この預言によって、それ以後のユダヤ人は救い主のことを「ダビデの子」と呼びました。

この様にして、ユダヤ人は救い主を、待ち望む民族となりました。

—— マタイとルカの系図の違い ——

さて、新約聖書には、2つのイエス様の系図が書かれています。マタイとルカです。

マタイとルカの、それぞれの系図の違いについて学びましょう。

・（ルカ 3:23-38 節） ルカの福音書はイエス様から始まってダビデ、アブラハムを経て、アダムまでさかのぼって行きます。人類はアダムから始まっていると書かれているルカの福音書は全世界の人々、特に異邦人に向けて書かれた書物であることが分かります。

・（マタイ 1:1-17 節） マタイの福音書はイスラエルの父祖アブラハムから始まっています。つまりマタイの福音書はユダヤ人にあてて書かれた書であることがわかります。

ユダヤ人は救い主を待ち望む民族でした。アブラハムから始まって、もう 2000 年も待ち続けて来ました。では、マタイの系図から、その特徴について学びましょう。

——— マタイの系図の特徴 ———

系図は、次の3つに分けることができます。

(1:2～6A 節)

①アブラハム～ダビデ (14 代) BC2000～1000 年 黄金時代 (神政政治) 約 1000 年間
この時代は、神政政治の時代で、神様が直接、民を支配し、民は従いました。理想的な政治が行われ、1000 年続きました。

(1:6B～11 節)

②ダビデ～バビロニア捕囚 (14 代) BC1000～600 年 墮落の時代 (王の政治) 約 400 年間
この時代は、民の心が神様から離れ、神様の代わりに人間を王様にしました。その王は罪を犯し国は墮落し、神様の審きを受ける様になりました。

BC597 年、バビロニアの王、ネブガドネツアルはエルサレムに攻めて来ました。そして、エルサレムを征服して、すべての貴族、軍人、及び熟練工など、約 1 万人近くを捕虜にしました。そして、あのソロモン王が作った神殿、王宮の貴重品を戦利品として持ち去って行きました。この様にして、イスラエルは神様の裁きによりすべてを失ってしまいました。

これらすべては罪の結果でした。イスラエルの民はこの時、自らの犯した罪の重大さをいやっというほど知りました。

(1:12～16 節)

③バビロニア捕囚～キリスト (14 代) BC600～BC 4 年頃 尊厳と威光の回復 約 600 年間
バビロニアに移されてから約 50 年、バビロニア帝国は滅び、イスラエル民族は解放され故郷ユダヤの地に帰りました。しかし、ユダヤは以前の栄光を取り戻すことは出来ませんでした。BC63 年、エルサレムはローマによって占領されローマ領になってしまいました。あの栄光のイスラエルの王ダビデの家系も、ついにヨセフの代になって、貧しい大工にまで落ちてしまいました。

しかし、ユダヤ人は待ち望む民族でした。神様は繰り返し繰り返し、預言者を通して「アブラハムのすえから、ダビデの子孫から、救い主をおこす」とお語りになっておられました。しかも、そのお生まれになる場所も、示されました。ベツレヘムです。

(ミカ 5:2 節)「ベツレヘム・エフラテよ、あなたはユダの支族の中で、あまりにも小さい。だが、あなたからわたしのために イスラエルを治める者が出る。その出現は昔から、永遠の昔から定まっている。」

ユダヤ人は救い主を待ち続けました。時が満ちました。いよいよクリスマスとなりました。(第一ペテロ 1:20 節)「キリストは、世界の基 (もと) が据えられる前から知られていましたが、この終わりの時に、あなたがたのために現れてくださいました。」

——— 系図の中の4人の女性 ———

さて、この系図の中に4人の女性が出てきます。実はユダヤの系図では女性は決して名前が出ないはずなのですが、ここでは4人も出てきます。そして、その4人の女性とは、メシアの系図には、ふさわしくない女性たちばかりでした。イスラエルの常識からすると、退けられなければならない女性ばかりです。全員が、何らかのスキャンダルの持ち主です。

- 1, タマル (1:3 節) ——— 彼女は異邦人 (カナン人) です。道徳的に乱れた生活をしてしゅうとのユダと (遊女に偽装して) 関係を持ちました。(創世記 38:1~30 節)
- 2, ラハブ (ヨシュア 2:1~24 節) ——— 彼女は遊女でした。
- 3, ルツ (ルツ 1:4 節、申命記 23:3 節) ——— 彼女は異邦人でした。しかも、ユダヤ人に最も嫌われているモアブ人でした。その十代目まではユダヤの宗教に入る事はゆるされませんでした。
- 4, ウリヤの女 (バテ・シェバ) (第2サムエル 11:2~5 節) ウリヤの妻、夫の留守中にダビデ王と姦通しました。そして、ソロモンが生まれました。

それにしても、神様はこの様な罪を犯した女性たちを、わざわざイエス様の系図に入れたことに、注意を払わなければいけません。ここから学ぶ大切な3つの事です。

・第1、神様は人種的な差別をなさいません。神様の愛は不変であり、民族を越えています。(ガラテヤ 3:28、29 節)「ユダヤ人もギリシャ人もなく、奴隷も自由人もなく、男も女もありません。あなたがたはみな、キリスト・イエスにあって一つだからです。あなたがたがキリストのものであれば、アブラハムの子孫であり、約束による相続人なのです。」

・第2、神様は男女の差別をなさいません。

・第3、神様は聖人も罪人も差別なさいません。

(マタイ 9:13 節)「・・・わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招くためです。」

(第2テモテ 3:15 節)「・・・聖書はあなたに知恵を与えて、キリスト・イエスに対する信仰による救いを受けさせることができます。」

神様は、どの国の人も救われます。

神様は、男も女も救われます。

神様は、どんな罪人も救われます。

こんな素晴らしい救い主が、私たちの所に来てくださいました。それがクリスマスです。

今年も、イエス様の愛に心から感謝するクリスマスにしたいですね。

今から、しっかりと、今年のクリスマスを、待ち望みましょう。